

⑩ Knowledge Acquisition Techniques and Tools:
Current Research Strategies and Approaches

J. H. Boose(Houston)(Boeing Computer Services,米国)

発表要旨

論文執筆社のDr.Booseが来られないということで、代わりにDr.Houstonが講演を行った。講演の全体的な内容は、Boeing社におけるETS(AQUINAS)システムの構築と、知識獲得支援のための技術についてであった。

講演の前半は、ETSの拡張版であるAQUINASシステムの内容について説明があった。まず対象はエキスパートシステム構築であり、心理学とシステム工学の手法が用いられたことが示された。次に知識の獲得方法についての説明が行われた。まず分類要素(solution)と、存在する特徴を3つ1組で入力するTriadic Elicitationが行なわれる。そしてその特徴に対する評価(Raiting)を行い、OPS5などのルールに変換される。またこのように獲得された知識の分析のための支援機能として、要素間の意味関係の分析(Implication Analysis)、生成ルールのケーステスト、要素・ケース・特徴・専門家などに対する階層化管理とその木構造の表示機能などが含まれる。

また、講演の後半では、他で開発されている知識獲得ツールの分類やETS・AQUINASの位置付け、そして計算機上での知識獲得に必要な技術(心理学をベースにしたインタビュー法、モデリング、マルチエキスパートや他の知識源の扱い)などが紹介された。そして最後にAQUINASの分析法のまとめが示された。